

平成7年度埋蔵文化財
発掘調査報告書



1 9 9 6

新潟市教育委員会

例 言

1. 本書は平成7年度に実施した埋蔵文化財包蔵地（周知の遺跡）発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は新潟市教育委員会が調査主体となり、生涯学習課が所管した。
3. 調査で得た資料は、新潟市教育委員会（埋蔵文化財センター）が一括して保管している。
4. 現地調査から本書の作成に至るまで、多くの方々や機関から指導・協力を得た。

目 次

1	平成7年度の調査概要	1
2	確認調査	3
	(1) 石動遺跡	3
	(2) 大江山地区の遺跡—笹山前・神明社裏遺跡—	5
	(3) 溜池遺跡	14

1 今年度の調査概要

今年度は下記の9遺跡14件について調査を行った。埋蔵文化財センター（以下センターと略）の発足に伴い、基本的に開発関連の協議・工事立会い・確認調査は生涯学習課文化財係、本格調査・遺物の保管・保存処理はセンターで担当するなど、業務を分担することになった。

センターの初調査となった石動遺跡で、上層からは平安時代の土師器・須恵器（9世紀後半）、中世の青磁・珠洲焼（14世紀）等が出土し、下層の黒褐色砂から新潟市には事例の少ない弥生時代中・後期の遺物が出土した。石製品は管玉等数点が確認されている。遺構はV字状溝・小穴などを検出した。縄文時代晩期、古墳時代前期の土器も出土したが、遺構は確認されなかった。

また昨年度に続き、大江山地区圃場整備関連の調査を行った。工事に必要な最小限の範囲について、本格調査を実施した。異例の冬期間の調査となったため、移動式ビニールハウスの設置、室内照明の取り付け等対策を講じた。しかし、光量不足、全体写真が撮れないなどの写真撮影の問題、土が凍る、排土の運び出し、土色の判別がしにくいなどのさまざまな困難を抱えた調査であった。8年度に2次調査、報告書刊行を予定している。

1表 管内遺跡調査一覧表

	(遺跡番号) 遺跡名	届出通知月日等 調査原因	届出地 番 積	調査区分 調査期間	調査結果・取扱い
1	109 岡山の石仏	1995.12.22法57条の3 側溝新設	岡山字中山567-3 1,023㎡	慎重工事 12月22日	遺物・遺構とも確認されず 工事継続。
2	16 大淵	1995.11.1法57条の3 水路改修工事	大淵字天神裏1201 400㎡	慎重工事 2月23日	遺物・遺構とも確認されず 工事継続。
3	55 ヤマサキ	1995.5.18法57条の2 球根管理施設建設	木山字前田627番地 3,472㎡	立会い調査 6月7日	遺物・遺構とも確認されず 工事着手。
4	63 坂出	(事前協議) 下水道敷設	赤塚地内 8,300㎡	立会い調査 10月30日	遺物・遺構とも確認されず 工事継続。
5	7 笹山前	1994.7.19法57条の3 圃場整備	蔵岡字笹山前122 840,000㎡	立会い調査 11月27、28日、12月1、12、13、18、21、22日	遺物・遺構とも確認されず 工事継続。
6	19 神明社裏	1994.7.19法57条の3 圃場整備	笹山字宮浦89 840,000㎡	立会い調査 2月28、29日	遺物・遺構とも確認されず 工事継続。
7	28 城山	1994.7.19法57条の3 圃場整備	蔵岡字城山1209 840,000㎡	立会い調査 1月17日	遺物・遺構とも確認されず 工事継続。
8	85 石動	1995.3.28法57条の3 県道建設	本所字居浦936 5,800㎡	確認調査 5月10、11日	遺物・遺構とも確認されず 工事着手。
9	7 笹山前	1994.7.19法57条の3 圃場整備	蔵岡字笹山前122 840,000㎡	確認調査 10月3～13、20日	遺物・遺構・遺物包含層を 確認。詳細は本文参照。
10	19 神明社裏	1994.7.19法57条の3 圃場整備	笹山字宮浦89 840,000㎡	確認調査 10月3～13、20日	遺物・遺構・遺物包含層を 確認。詳細は本文参照。
11	36 溜池	(事前協議) 事務所建設	河渡本町923-1 1,541㎡	確認調査 12月6日	遺物・遺構とも確認されず 工事着手。
12	85 石動	1995.5.22法98条の2 県道建設	本所字居浦845 2,600㎡	本格調査 6月26～11月29日	弥生・古墳・平安・中世の 遺物・遺構等出土。
13	7 笹山前	1995.12.7法98条の2 圃場整備	蔵岡字笹山前122 770㎡	本格調査 12月11～3月1日	縄文・弥生・古墳・平安・ 中世の遺物・遺構等出土。
14	19 神明社裏	1995.12.7法98条の2 圃場整備	笹山字宮浦89 275㎡	本格調査 3月4～22日	平安の遺物・遺構等出土。

番号	名称	時代等	番号	名称	時代等
1	中山	縄文・古墳・平安	47	細山石仏	中世
7	笹山前	縄文・弥生・平安	51	直り山B	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世
8	若荷谷	縄文・奈良・平安・中世	62	猿ヶ馬場B	中世
9	彦七山	奈良・平安	80	石仏山	中世
10	金塚山	奈良・平安	82	津島屋の石仏	中世
11	前山	奈良・平安	83	竹尾西	奈良・平安
13	丸山	奈良・平安	84	本所居館跡	中世?
14	直り山A	奈良・平安	85	石動	古墳・奈良・平安・中世
15	猿ヶ馬場A	奈良・平安・中世	86	下場	奈良・平安・中世
16	大淵	奈良・平安・中世	87	江口館跡	中世?
17	居浦郷	奈良・平安	88	小丸山	縄文・古墳・奈良・平安・中世
19	神明社裏	奈良・平安	89	若荷谷墓地	奈良・平安
20	寺山	奈良・平安	91	清水が丘	奈良・平安
28	城山	縄文・古墳・奈良・平安・中世	95	石山の石仏	中世・近世
30	竹尾	奈良・平安	109	團山の石仏	中世
31	古屋敷	奈良・平安・中世	110	松山	縄文・中世
35	宮浦	奈良・平安?	201	阿賀野川中州	奈良・平安?
36	瀬池	奈良・平安?	203	寺山の石仏	中世石仏
38	西野	奈良・平安	208	大仏の塔	中世石塔
46	北山	中世	211	一日市の石仏	中世石仏

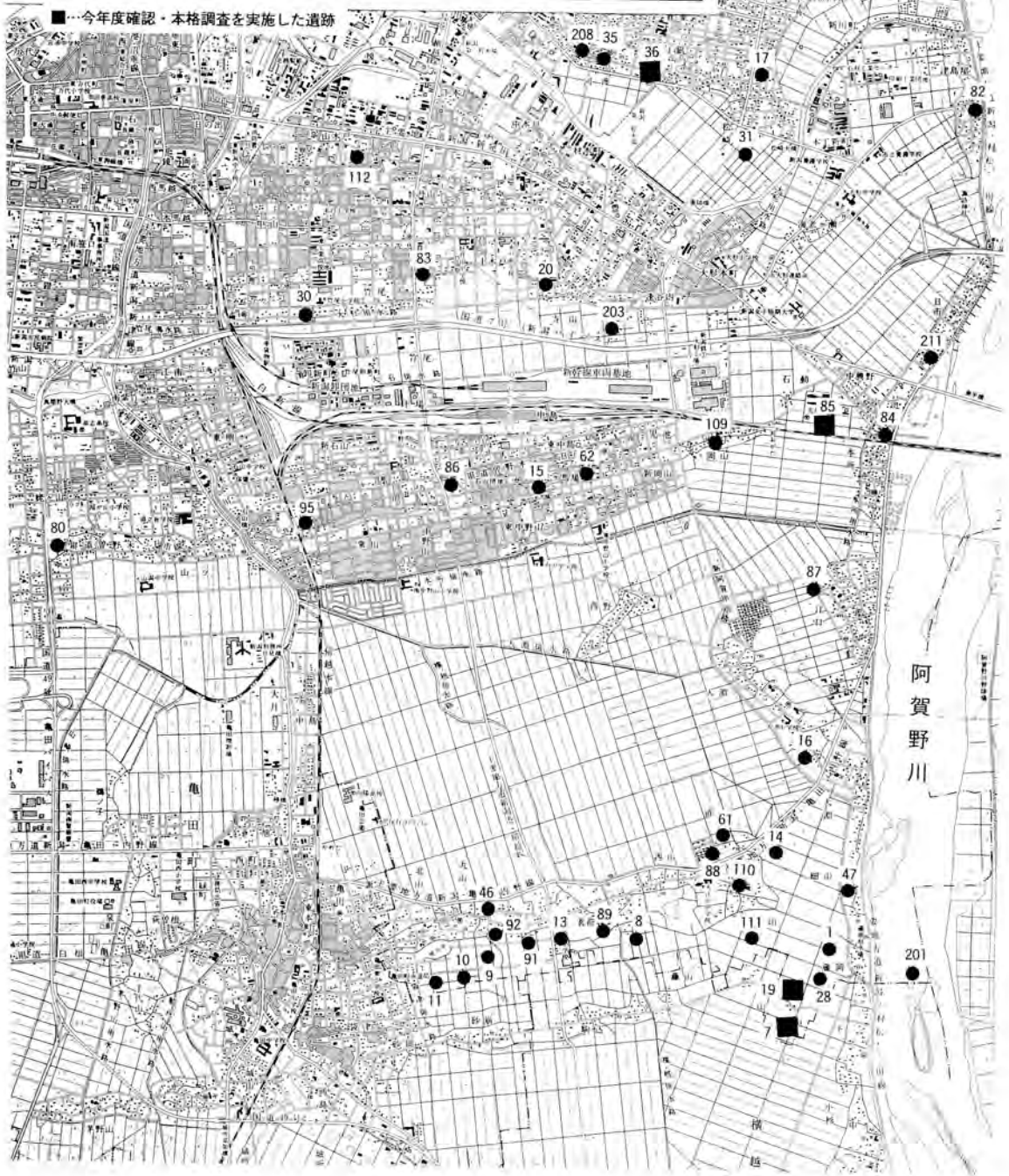


図1 遺跡周辺図 (S = 1/50,000)

2 確認調査

前章で述べたとおり、今年度から組織が改変され、工事立会い・確認調査と本格調査を2つの組織で分担して行うこととなった。確認調査は5～12月の間に4遺跡を行った。調査体制は次のとおりである。

調査主体者	新潟市教育委員会	(教育長 石井 淳)
総括	武藤 紘一	(生涯学習課長)
	皆川 泰男	(" 課長補佐)
事務局	高橋 正幾	(" 主事)
調査担当	小池 邦明	(" ")
調査員	諫山えりか	(" ")

また、別途0.2～0.25mの法面バケツ・ゴムキャタピラの小型重機(オペレーター付)を委託契約し、調査にあたった。また、国宝重要文化財等保存整備費補助金(事業名は市内遺跡発掘調査、国50%、県25%負担)を受け、確認調査の経費としている。

(1) 石動遺跡

はじめに

石動遺跡の試掘調査は、県道拡幅建設工事に伴うもので、調査対象は本所字居浦936番地ほかの約2,500mである。現地調査は5月10・11日の2日間にわたって実施された。



図2 試掘坑配置図 (S=1/2,500)

遺跡周辺の地形

遺跡の1.2kmほど東方に日本でも有数の水量を誇る阿賀野川が流れている。

古墳時代以前は前述の石山砂丘（新砂丘Ⅰ－Ⅱ列に対比する）上で生活が営まれ、その後流路が変化し、平安時代以降の時期は阿賀野川西岸の自然堤防上に集落が形成された。

東西に長い砂丘列をほぼ垂直に交差して阿賀野川の流路が形成されている。同自然堤防上には、ほかに82（津島屋の石仏）、211（一日市の石仏）、84（本所居館跡）、87（江口館跡）、16（大淵）、47（細山石仏）などがある。中世に成立したとされているものが多いが、館跡についてはいずれも時期を示す明確な遺物が拾われておらず、成立時期は不明とされている。また、3体ある石仏のうち、一日市の石仏が現在まつられている日照寺（日照庵）の前の土地に埋没していたと記録があるが、他の2体は出土地は不明である。比較的時代がはっきりしているものは大淵遺跡だけであり、これは平安時代が中心とみられている。

また、一方で同一砂丘列上に立地する遺跡には、109（岡山の石仏）、62（猿ヶ馬場B）、15（猿ヶ馬場A）、86（下場）、95（石山の石仏）があげられる。猿ヶ馬場A遺跡において奈良・平安時代の遺物が出土したとある以外中世の遺跡とされているものがほとんどである。現在の標高も0.8～1.6mと全体に低く、砂取り等により削平されている可能性がある。

調査地点

平成6年度に一部試掘したところ（図中網罟の箇所）、砂丘列上の暗褐色砂から古墳・平安時代の土師器少量と土坑1基が確認され、範囲が広がることが確認されている。

今回の調査対象地は前年度調査地から約75m離れており、北へ広がる可能性を考慮し、調査地内に試掘坑11箇所をほぼ均等に配した（図2参照）。

調査結果

図3に各トレンチの層序を示す。

攪乱は受けておらず、自然堆積と思われる粘土（洪水性堆積）層と腐食植物層が交互に堆積していた。遺物・遺構・遺物包含層は認められず、工事着手となった。

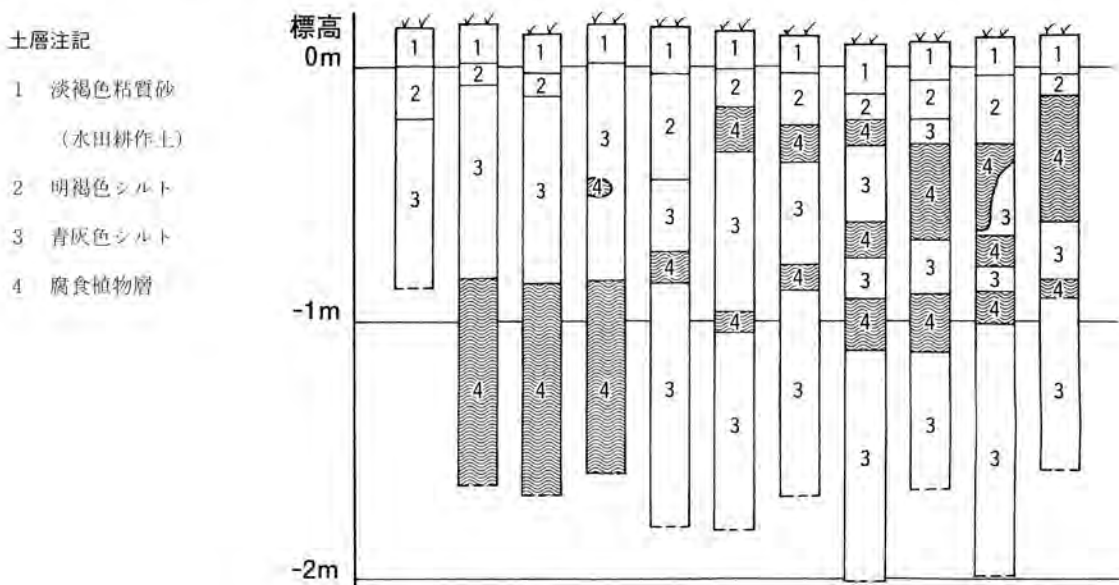


図3 土層柱状図（S=1/30）

(2) 大江山地区の遺跡－笹山前・神明社裏遺跡－

調査原因

大江山地区の遺跡の試掘調査は、平成6年度より継続している県営圃場整備事業伴うもので、今年度は神明社裏遺跡と笹山前遺跡の2遺跡を対象に行った。笹山前遺跡が蔵岡字笹山前、神明社裏遺跡笹山字宮浦に所在する。事業対象面積は合計840,000㎡であるが、そのうち19,800㎡が遺跡の推定範囲にかかるため事前協議で確認調査をおこない、範囲を確定する必要がある。農業用排水路工事については平成7年度末までに終了したいと新潟農地事務所より強い要請があり、確認調査実施後、遺跡がかかっている場合は本格調査費用を補正予算であげ、通常であれば遺物整理作業にあたる冬期間に本格調査を実施する異例の措置が取られることになった。

立地状況と周辺の遺跡

今回調査対象となった笹山前と神明社裏遺跡は海岸線から約970m、阿賀野川右岸から約650m西にはいった大江山地区に所在しており、新潟平野を形成する砂丘列の中でも亀田砂丘列前列（阿賀野川以東新砂丘列Ⅰに対比）の残丘である小砂丘上に立地している。現在砂丘の頂上付近は宅地であり、それを囲むように畑や水田が広がっている。標高は3m程度で、水田面から1～2mほどの比高差がある。

砂丘の東端に阿賀野川が流れ、自然堤防が平行して残っている。遺跡の南西方向に砂丘列が広がり、同じ砂丘列上では中山遺跡や城山遺跡、松山向山遺跡などがある。1950年頃から遺物が採集され、1960～70年にかけて新潟東工業高校や新潟南高校の生徒らによって初めて調査された。また、開発に伴う発掘調査が山ん家遺跡（弥生時代中期、横越村（当時）教育委員会）、砂崩遺跡（縄文時代中期、亀田町教育委員会）などで行われている。

平成6年度に市内では数少ない縄文時代の遺跡が調査されている。笹山前・神明社裏遺跡の北側にある中山遺跡で、縄文中期後葉（約4,000年前）と思われる埋設土器遺構が見つかった。これまでに発見された資料は表面採集された小さな土器片が多く、遺構が確認された例はなかった。縄文時代中期には砂丘が形成されていたことを示す地質学的にも貴重な資料でもある。そのほかに後期初頭の土器片や、磨製石斧、奈良・平安時代の土師器・須恵器等が確認されている。砂丘北側は砂丘や自然堤防等がなく、標高が低くなり、遺跡数は少なくなる。現状では水田が広がっており、埋没砂丘の存在も考えられるが、河川の氾濫などにより安定した生活が難しかったと思われる。

調査方法

周辺を踏査してから実際に重機で掘り下げを開始した。遺跡の広がり確かめるため、2遺跡合計43箇所を設定した。調査前に地元農家から、農機が旋回する角地は掘らないこと、1筆に試掘坑は1～2箇所にする事等要望があり、それに従った。小型の重機で10～15cmずつ水平に掘り下げ、遺構あるいは遺物を発見した段階で機械を止め、人力により包含層を掘った。基本的に砂丘基盤砂層上面まで掘り下げた。遺物は、出土状況を写真撮影及び図面に取り、記録したのち取り上げて保管した。遺構は平面図を記録するにとどめた。

調査部分は水田部が多く、排土を耕作土、粘性の強い腐食植物層、粘土と分けて置き、混ざらないよう留意した。また、排土を全部戻しても地表面が沈んでその後の農作業に支障がでるため、埋め戻しの際には川砂を足して地面を転圧した。発掘調査は稲刈り後、10月3～13日の10日間にわたって実施され、20日に測量を行い終了した。

笹山前遺跡

発掘調査の経過

試掘前に周辺を踏査し、土師器や須恵器の破片を採集した。遺跡の西側で住宅と水田の境に土層が観察できる場所があったため観察面とし、遺物を採集した。表土直下の層が遺物包含層であったが、上層に平安時代、その下層に縄文土器を包含していた。

土層堆積状況と遺構・遺物

笹山前遺跡の範囲確認として20か所の試掘坑(以下TPと省略)を調査した。当初は地表面から深さ約50~60cmで包含層が観察されたため、場所によっては削平されている可能性が高いことが予測されたが、あまりかく乱されておらず、比較的土層堆積状況は良好である。遺物が出土した試掘坑の標準的な土層堆積は1層暗褐色土(畑耕作土)、2層淡褐色あるいは灰褐色シルト層、3層黒褐色土(砂丘形成層)、4層暗褐色砂(漸移層)、5層明褐色砂層(砂丘基盤層)である。盛土に番号はふっていない。客土の堆積、シルト層の色調等により分層した試掘坑もある。淡褐色あるいは灰褐色シルト層から古墳時代と平安時代、黒褐色土・暗褐色砂層に縄文時代と古墳時代の遺物が包含されていた。遺物が出たTPを中心に記述する。図示した遺物については観察表を記載した。

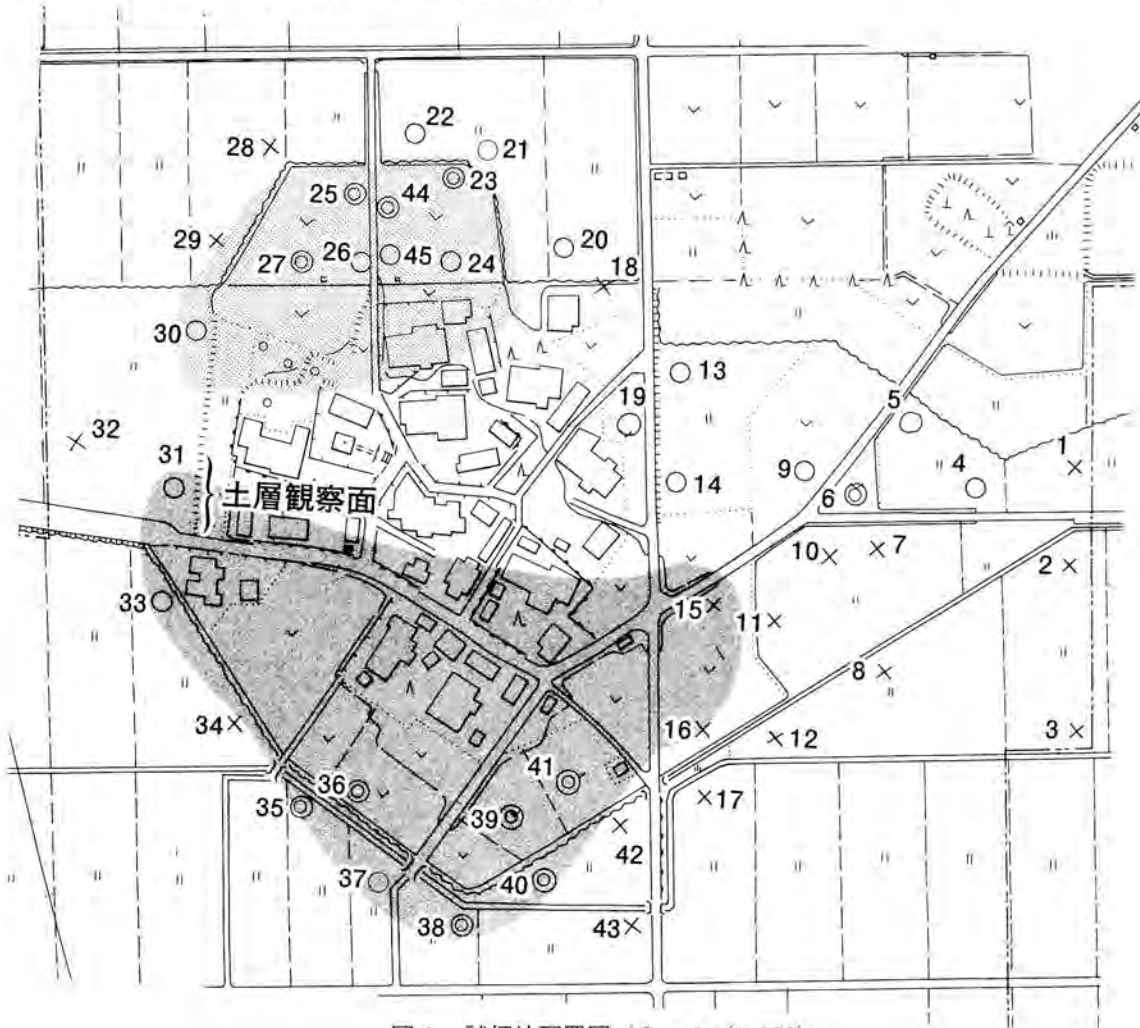


図4 試掘坑配置図 (S = 1 / 1,000)

- ◎ : 遺物あるいは遺構が出土したTP
- : 包含層が確認されたTP
- ⊗ : 遺物・遺構・遺物包含層が確認されなかったTP
- : 笹山前遺跡範囲
- : 神明社裏遺跡範囲

TP6：黒褐色土層から縄文土器片が出土。

TP36：淡褐色粘土層から時期不明の土師器片が出土した。暗褐色砂層上面から埋設土器遺構が確認された。縄文時代後期後葉の深鉢形土器が少し傾斜して埋められていた。遺構は黒褐色砂中から掘り込んでおり、包含層と覆土を判別できなかった。そのため、半裁図は土層と土器の埋設状況のみを凶化した。土器を取り上げた後、近接した位置で骨が出土しており、当初は土器の中に収められていた可能性もある。種類・部位は不明である。このほかに2層排土中から石鏃が1点出ている。

TP38：黒褐色土層から縄文土器片が数点出土。

TP39：淡褐色粘土層から古墳時代の土師器片、平安時代の土師器・須恵器片が出土。排土中から確認したため、層位的な上下差を捉えられなかった。

TP41：淡褐色粘土層から平安時代の土師器片が数点出土。

埋設土器遺構出土土器について

出土した深鉢型土器は「瘤付土器」と呼ばれ、縄文時代後期後葉（約3,000年前）に東北地方南部を中心に分布していたとされる。新潟県内では山北町上山遺跡、朝日村元屋敷遺跡、新発田市中野遺跡等で確認されている。

笹山前で出土した深鉢形土器は高さ44cm、胴部径27.5cmである。底部から胴部までほぼ残っていたが、口縁は欠損して一単位分しか残っていなかった。口縁部は波状を呈する。残存部から復元すると、本来5単位あったと推測される。器形は胴部から口縁にむかって広がり、瘤付土器に特徴的な胴部のくびれない。胎土中には直径1～3mmの雲母・石英・長石等が多量に含まれている。焼成は良好で、暗褐色を呈する。底部から胴下半部にかけて火を受けた部分が明赤褐色に変色し、うすくススが付着している。口縁にはハの字の刻みと直径1.4mmほどの刺突で模様付けされている。波状の谷の部分に直径1.4mmほどの瘤が付いており、真ん中を縦に刻み目が入れている。刺突施文後に瘤を付けている。文様帯には2段の帯状の文様があるが、入り組帯状文と連結弧線状文の組み合わせである。単位は9単位で巡っており、口縁の単位と合わない。文様は2種類（LRとRL）の縄文原体を用いて充填されているが、規則性はない。胴部の施文は浅い。胴部は約5mmと薄く、内面調整もやや荒い。胴下半部はLRの縄文原体で施文される。胴上半部（第2文様帯）に比べ、縄文が強めに施されている。内部は口縁部周辺の表面は磨いて調整しており、あまり磨耗していない。底部に向かうにつれて、ナデが雑になる。また、部分的に剝離しており、被熱のためと思われる。

今回出土した土器は口縁・胴部における文様帯を複数の工具・原体を用いて模様をつけたり、胴部のくびれがはっきりせず、瘤が多いなどの特徴を有しており、県内出土の瘤付土器とやや様相が異なる。また、福島県博物館森幸彦氏よりくびれないあいまいな器形の深鉢形土器は福島県内でもあまり類例がなく、瘤付土器の分布域でも端部である新潟の地域性を示しているのではないかとご教示いただいた。また、文様構成からは古い段階と考えられる。

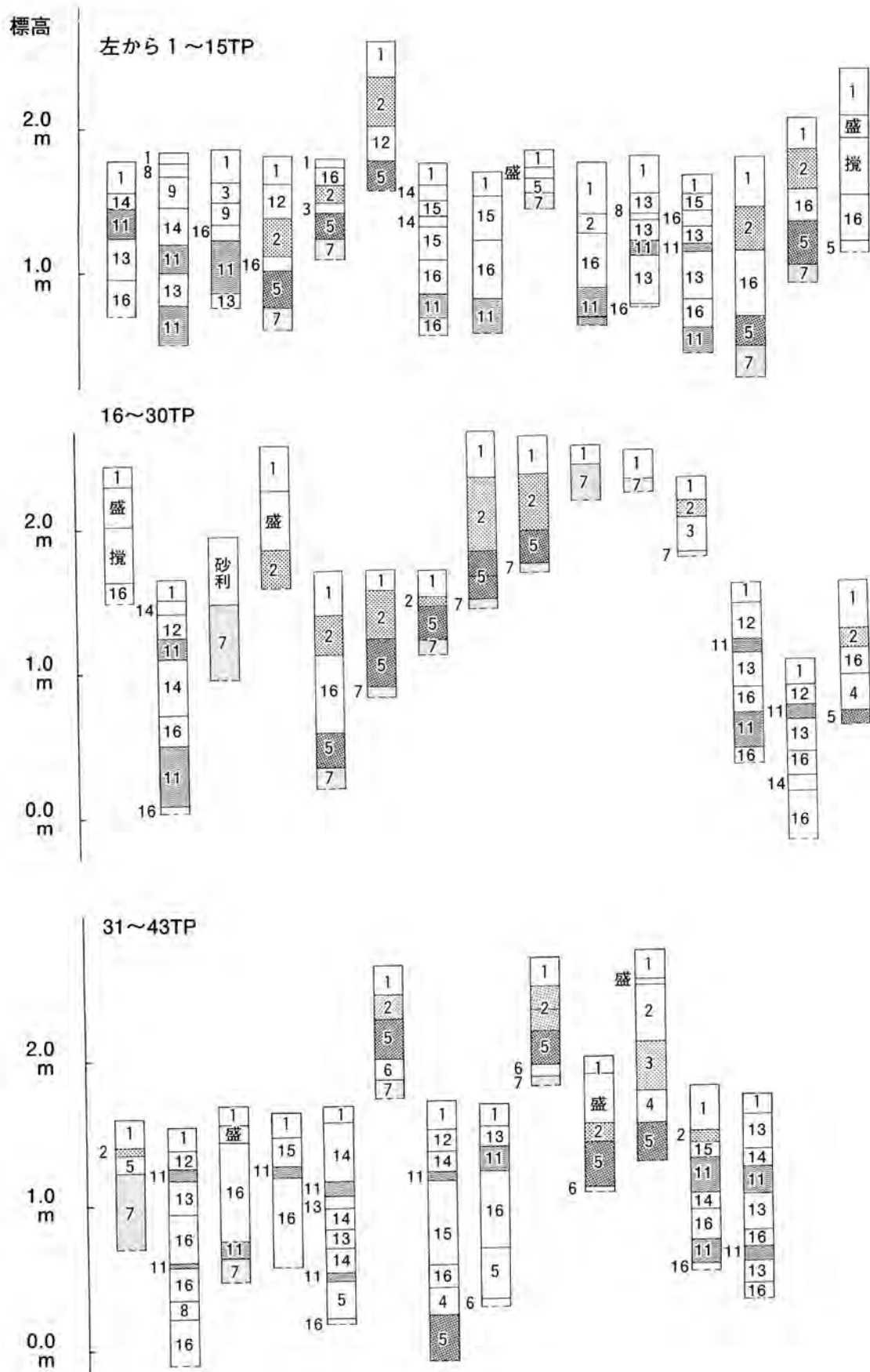


図5 土層柱状図 (S = 1/40)

土層注記

1 褐色土（水田・畑地耕作土）	9 灰褐色シルト	盛一盛土
2 淡褐色・灰褐色粘土	10 黄褐色ガツボ	攪一攪乱
3 灰褐色粘質砂	11 暗褐色ガツボ	
4 黒色シルト	12 灰色粘土	
5 暗褐色・黒褐色砂	13 褐色粘土	 平安時代遺物包含層
6 暗褐色砂（漸移層）	14 淡褐色粘土	 縄文・古墳時代遺物包含層
7 黄褐色砂（砂丘基盤層）	15 暗灰褐色粘土	 腐食植物層
8 青灰色シルト	16 青灰色粘土	 砂丘基盤層

神明社裏遺跡

発掘調査の経過

遺跡周辺を踏査し、遺物の表面採集に努めた。採集できた場所は畑が多く、また、遺跡の東端にあたる場所で包含層が露出しており、堆積状況が観察できたため、そこからも遺物を採集した。平安時代の土師器と須恵器の破片が発見された。

遺跡周知範囲の南側半分の現在の土地は宅地で今回の圃場整備の対象外であり、試掘を入れていない。そのため小砂丘の北側斜面が対象となった。今回の試掘により、遺跡の北側と東西の広がりはおおよそ捉えることが出来、平面的な広がりはこれまで周知されていた範囲とほぼ一致した。南側に隣接する笹山前遺跡との境界部分の範囲はとらえられなかった。また、過去の配管工事が遺物包含層まで達しており、一部破壊されているところもあった。

土層堆積状況と遺構・遺物

表面採集の際、淡褐色粘質土層が遺物包含層であることが確認できた。道路面から約50～60cmの高さであり、場所によっては削平されていることが予想された。

遺物が出土した試掘坑の標準的な土層堆積は笹山前遺跡とほぼ同じで、1層暗褐色土（畑耕作土）、2層淡褐色あるいは灰褐色シルト層（遺物包含層）、3層黒褐色土（砂丘形成層）、4層暗褐色砂（漸移層）、5層明褐色砂層（砂丘基盤層）である。遺物は淡褐色あるいは灰褐色シルト層から古墳時代の土師器や平安時代の土師器・須恵器等が出土した。遺物はあわせてテシバコ1箱程度である。砂丘の北側に立地するためか、遺物包含層が笹山前遺跡とは異なり、地表面から30～40cmのシルト層から出土している。縄文時代など古い時期の遺物は出土していない。遺構はシルト層中では今回発見されていない。その下の砂丘形成層からは遺物はあまり出ていないが、明瞭な平面プランが観察できた。

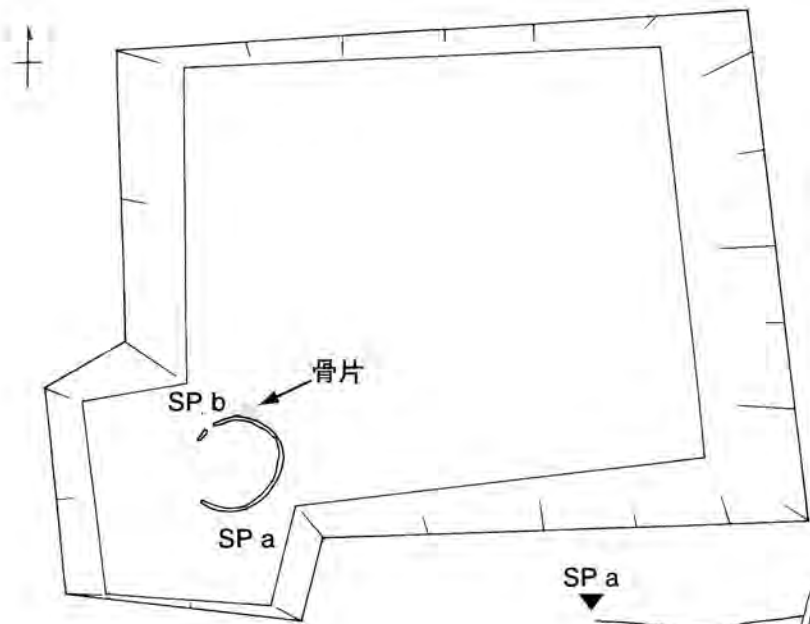
20TP：明褐色砂層上面で遺構の掘り込みを確認した。小穴が3基で、柱穴の可能性はある。遺構は掘らずに平面を精査し、写真を撮り、平面図を作成して埋め戻した。

23TP：淡褐色シルト層から平安時代の土師器片が出土した。

44TP：淡褐色シルト層から古墳時代の土師器甕が1個体分つぶれた状態で出土した。周囲に掘り込みは確認されなかった。粘性の高い土質であったが、器面はあまり風化せずに残っていた。

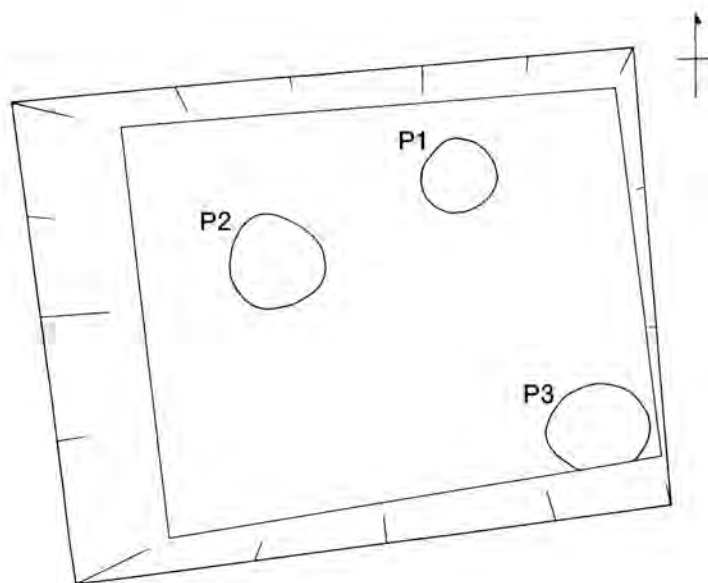
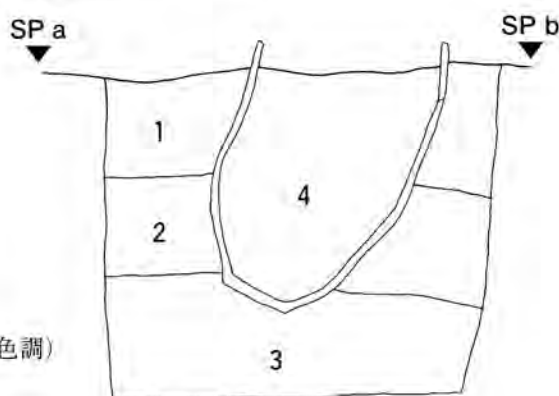
調査の結果

この確認調査の結果を元に新潟農地事務所と協議を行い、整備事業によって破壊される部分について、本格調査の実施が必要である旨県文化行政課より指導があった。工事工程上、笹山前遺跡と同様に一部本格調査を実施することになった。また、今回の確認調査以前に掘削が包含層まで達していた部分があり、今後遺跡範囲の把握と周知方法を検討する必要がある。



◀ 図6
遺構確認面平面図
(S=1/20)
TP36
5層 黒褐色砂層上面

▶ 図7 埋設土器半裁図 (S=1/10)
1層 黒褐色砂 (若干粘りけがある)
2層 暗褐色砂
3層 明褐色砂
4層 暗褐色砂 (2層よりも若干明るい色調)



▲ 図8 遺構確認面平面図 (S=1/20)
TP20 7層 明褐色砂層上面

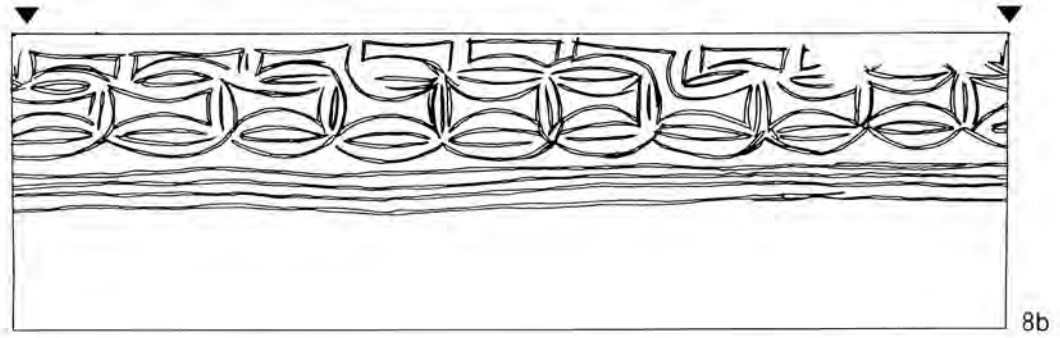
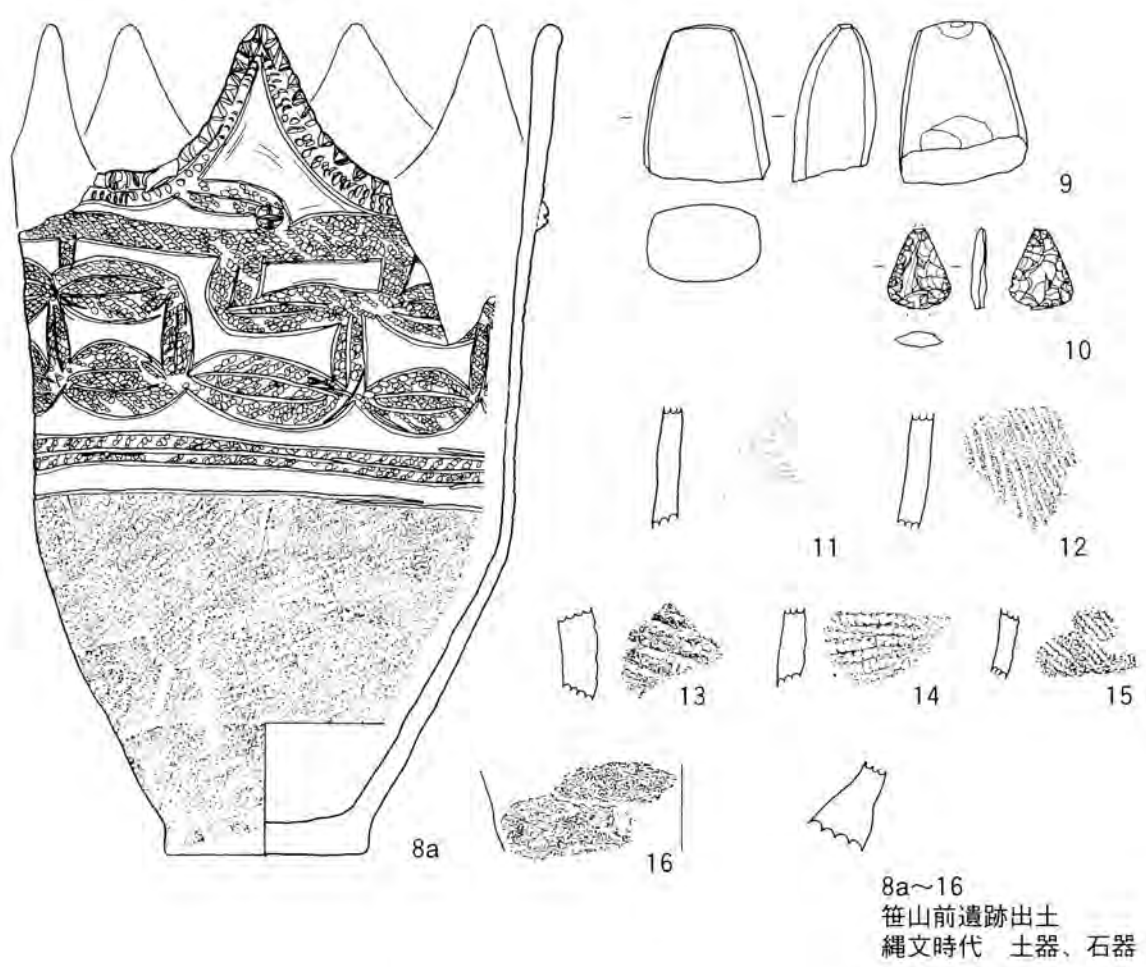
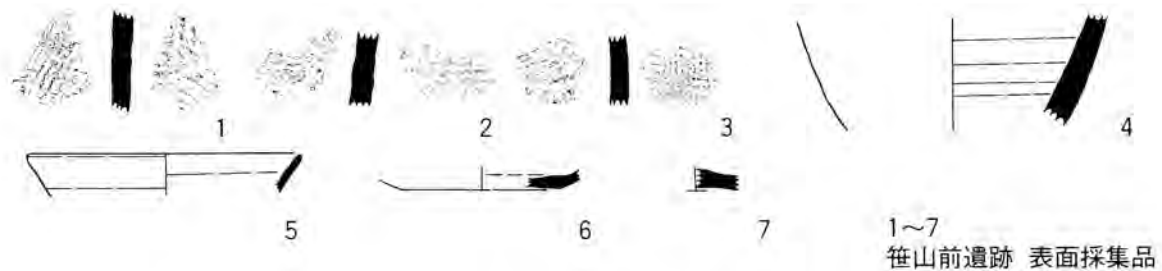


图9 笹山前遺跡出土遺物 (S=1/3、8 a=1/4、8 b=1/6)

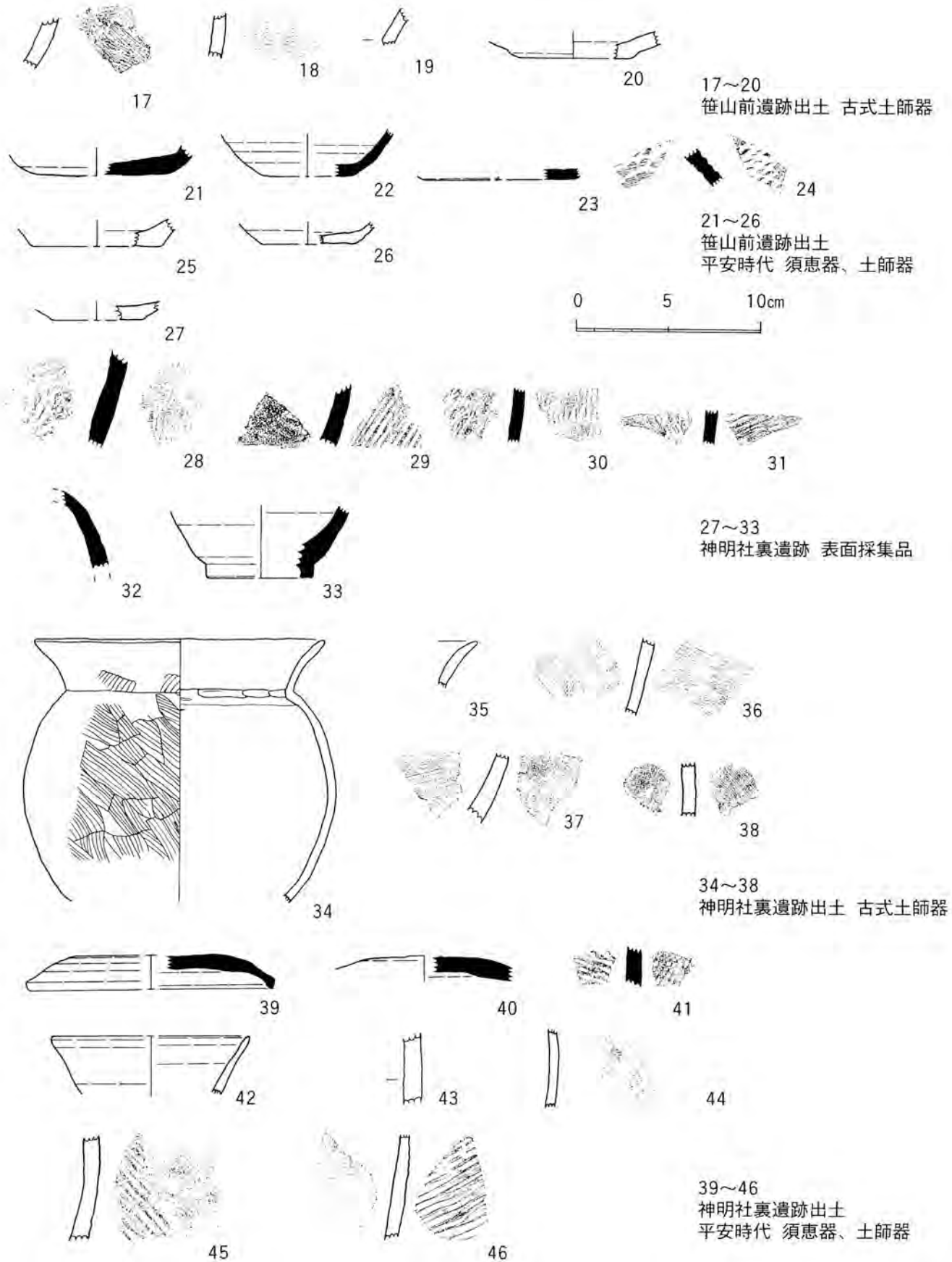


図10 笹山前・神明社裏遺跡出土遺物 (S=1/3)

2表 笹山前・神明社裏遺跡遺物観察表

番号	遺 跡	地点・層位	種 別	器 種	残 存 部	備考 (色調・焼成・胎土ほか)
1	笹山前	採 集	須 恵 器	甕	体 部	薄灰色 微細な白・黒色粒子微量含
2	笹山前	採 集	須 恵 器	甕	体 部	灰色 微細な白色粒子少量含
3	笹山前	採 集	須 恵 器	甕	体 部	濃灰色 微細な白色粒子少量含
4	笹山前	採 集	須 恵 器	壺	体 部	青灰色 径1mm以下白色粒子少量含
5	笹山前	観察面上層	須 恵 器	無台坏	口 部	灰色 微細な白色粒子少量含
6	笹山前	観察面上層	須 恵 器	無台坏	底 部	灰色 微細な白色粒子少量含
7	笹山前	観察面上層	須 恵 器	無台坏	底 部	灰色 微細な白色粒子少量含
8	笹山前	TP36 5層	縄文土器	深 鉢	口/5,底部完存	暗褐色 径4mm以下白・黒・金色粒子多量含
9	笹山前	表土剥ぎ出土	石 器	磨製石斧	刃部欠損	表面の風化が著しい
10	笹山前	TP36 2層排土	石 器	石 鏃	先端・基部欠損	玉髓製
11	笹山前	TP30 6層	縄文土器	深 鉢	体 部	淡褐色 径1mm以下白・灰・金色粒子多量含
12	笹山前	TP38 5層	縄文土器	深 鉢	体 部	褐色 径3mm以下白・透明・金色粒子多量含
13	笹山前	TP6	縄文土器	深 鉢	体 部	淡褐色 径1mm以下白・黒色粒子多量含
14	笹山前	TP38 5層	縄文土器	深 鉢	体 部	淡褐色 径2mm以下透明・金・白色粒子多量含
15	笹山前	TP40 5層	縄文土器	深 鉢	体 部	淡褐色 径2mm以下半透明・赤・黒色粒子多量含
16	笹山前	TP38 5層	縄文土器	深 鉢	体 部	淡褐色 径2mm以下半透明・赤・黒色粒子多量含
17	笹山前	TP36 2層	古式土師器	甕	体 部	褐色 径1mm以下白・半透明・黒色粒子多量含
18	笹山前	TP39 3層排土	古式土師器	甕	体 部	淡褐色 径3mm以下白・半透明・黒色粒子多量含
19	笹山前	TP39 2層排土	古式土師器	甕	頸 部	淡赤褐色 微細な白・半透明・黒色粒子少量含
20	笹山前	TP39 2層排土	古式土師器	器種不明	底部か	淡褐色 径1mm以下白・半透明・赤・黒色粒子多量含
21	笹山前	TP39 2層	須 恵 器	無台坏	底 部	青灰色 径2mm以下白色粒子少量含
22	笹山前	TP39 2層	須 恵 器	無台坏	底 部	灰色 微細な白色粒子微量含
23	笹山前	TP41 2層	須 恵 器	無台坏	底 部	灰白色 径1mm以下白・透明色粒子微量含
24	笹山前	TP39 2層	須 恵 器	甕	体 部	灰色 径1mm以下白色粒子微量含
25	笹山前	TP41 2層	土 師 器	小 甕	底 部	褐色 径1mm以下白・半透明色粒子少量含
26	笹山前	TP41 2層排土	土 師 器	碗	底 部	淡褐色 径1mm以下白・半透明・茶・金色粒子多量含
27	神明社裏	採 集	土 師 器	碗	底 部	淡褐色 径1mm以下白・半透明色粒子微量含 周部打ち欠きか
28	神明社裏	採 集	須 恵 器	甕	体 部	灰色 径1mm以下白色粒子少量含
29	神明社裏	採 集	須 恵 器	甕	体 部	灰褐色 径2mm以下白色粒子微量含
30	神明社裏	採 集	須 恵 器	甕	体 部	灰色 径1mm以下白色粒子少量含
31	神明社裏	採 集	須 恵 器	甕	体 部	青灰色 径1mm以下白色粒子少量含
32	神明社裏	採 集	須 恵 器	横 瓶	肩 部	灰色 微細な白色粒子微量含
33	神明社裏	採 集	須 恵 器	壺	底 部	青灰色 径1mm以下白色粒子微量含
34	神明社裏	TP44 2層	古式土師器	甕	口～体部	淡褐色 径2mm以下白・灰・赤・金色粒子多量含
35	神明社裏	TP39 2層	古式土師器	甕	口縁部	淡褐色 径2mm以下白・灰・赤・黒色粒子多量含
36	神明社裏	TP45 2層	古式土師器	甕	体 部	褐色 径1mm以下灰・半透明色粒子・海面骨針少量含
37	神明社裏	TP27 3層	古式土師器	甕	体 部	褐色 径1mm以下灰・半透明色粒子・海面骨針少量含
38	神明社裏	TP27 3層	土 師 器	甕	体 部	明赤褐色 径2mm以下白・灰・黒色粒子・海綿骨針微量含
39	神明社裏	TP25 1層	須 恵 器	坏 蓋	口 部	灰褐色 径1mm以下白・黒色粒子微量含
40	神明社裏	TP25 1層	須 恵 器	坏 蓋	体 部	灰色 径1mm以下白色粒子微量含
41	神明社裏	TP27 3層	須 恵 器	甕	体 部	青灰色 径1mm以下白色粒子少量含
42	神明社裏	TP24 2層	土 師 器	碗 か	口 部	淡褐色 径2mm以下白・赤色粒子微量含
43	神明社裏	TP24 2層	土 師 器	長胴甕	体 部	褐色 径1mm以下赤・灰・半透明色粒子微量含、内外面口ロナデ
44	神明社裏	TP24 2層	土 師 器	長胴甕	体 部	淡赤褐色 径1mm以下赤・半透明・灰色粒子少量含 内面ナデ
45	神明社裏	TP43 3層	土 師 器	長胴甕	体 部	淡褐色 径2mm以下白・灰・黒・赤色粒子多量含
46	神明社裏	TP19 3層	土 師 器	長胴甕	体 部	淡褐色 径1mm以下白・灰・半透明色粒子微量含 外面スス付着

焼成が良好なものについては、表記を省略した。

胎土の混和材は、最も大きい粒子のサイズで表記し、1mm未満のものを微細とした。

(3) 溜池遺跡

はじめに

溜池遺跡の試掘調査は、事務所建設に伴うもので、調査対象地は河渡本町22-45ほかの約1,541㎡である。12月6日に現地調査を実施した。

遺跡と調査地点

本遺跡は、新砂丘2列のうち物見山砂丘最前列南斜面に立地する。過去に土師器片が採集されているが、実物は残っておらず、出土地点や層位などは正確にはわからない。周辺に宮浦遺跡(35)と大仏の塔(208)等があり、宮浦遺跡では溜池遺跡と同じく、土師器が拾われたと伝えられているが、現在遺跡周辺では遺物は拾えず、遺跡の範囲は不明である。また、大仏の塔は大形神社隣の照覚寺付近にあったものが移されたとする伝承があるが、部分により様式が異なり、本来は中世や近世など複数の石塔だった可能性が指摘されている。他に遺物はみられない。

調査地の現況は更地であり、遺跡推定範囲のほぼ中央にあたる。

調査結果

試掘坑6箇所をほぼ均等に配し、24㎡を発掘した。深さ1.5~2.0mまで小型重機で掘り下げ、土層の堆積状況を観察した。旧耕作土(暗褐色砂)の上に砂が0.8~1.0m盛られており、その下に砂丘基盤層である黄褐色砂が堆積していた。基盤層からは湧水し、壁が崩れやすい状況であった。

以上から基盤層上部まですでに削平されており、調査地については、全に壊滅している状態であることが確認された。今後、このような過去に砂取り等で削平されている遺跡周知範囲の把握が必要である。

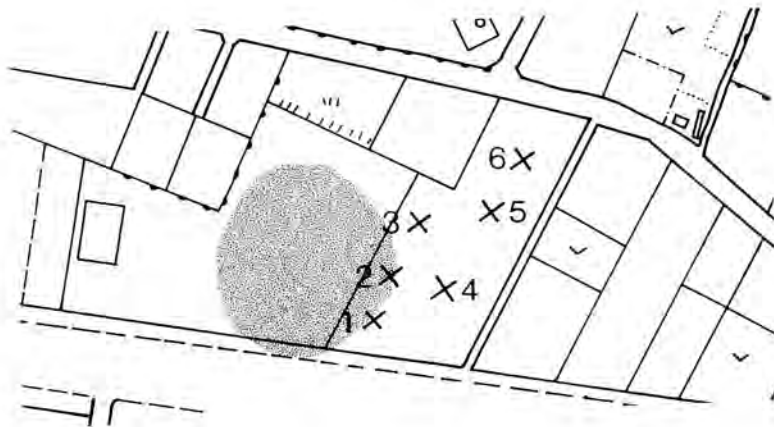


図11 試掘坑配置図
(S=1/1,500)
● 遺跡周知範囲
× 遺物、遺構等が確認されなかった試掘坑

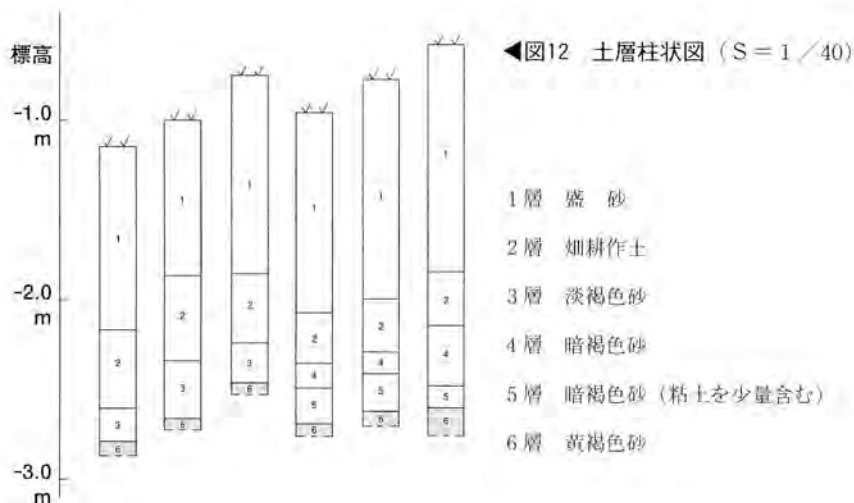


図12 土層柱状図 (S=1/40)

- 1層 盛砂
- 2層 畑耕作土
- 3層 淡褐色砂
- 4層 暗褐色砂
- 5層 暗褐色砂 (粘土を少量含む)
- 6層 黄褐色砂



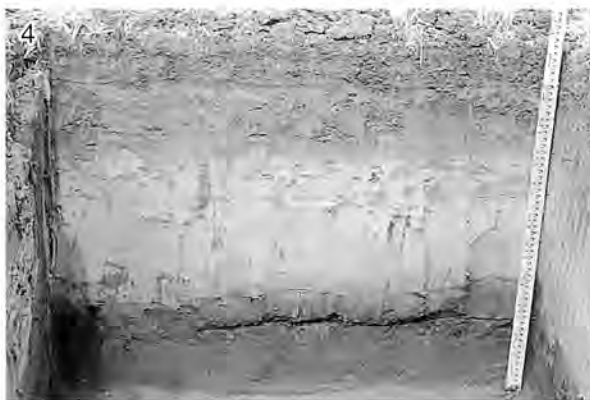
1・2 石動遺跡 作業風景



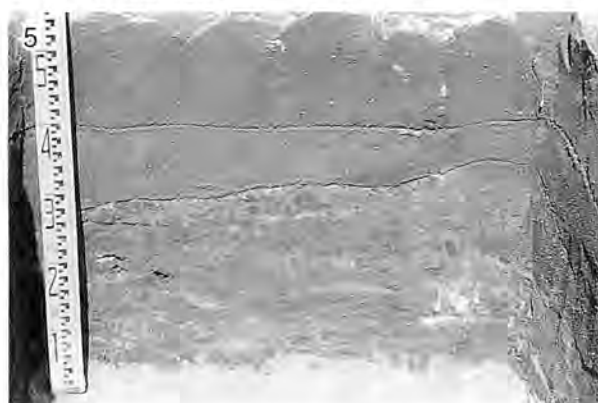
土層堆積状況



3～8 神明社裏遺跡 遺跡遠景



土層堆積状況(1)



土層堆積状況(2)



遺物出土状況(1)



遺構確認面



遺物出土状況(2)

9



9~14 笹山前遺跡 遺跡遠景



土層堆積状況



遺構確認面



遺物出土状況



埋設土器遺構



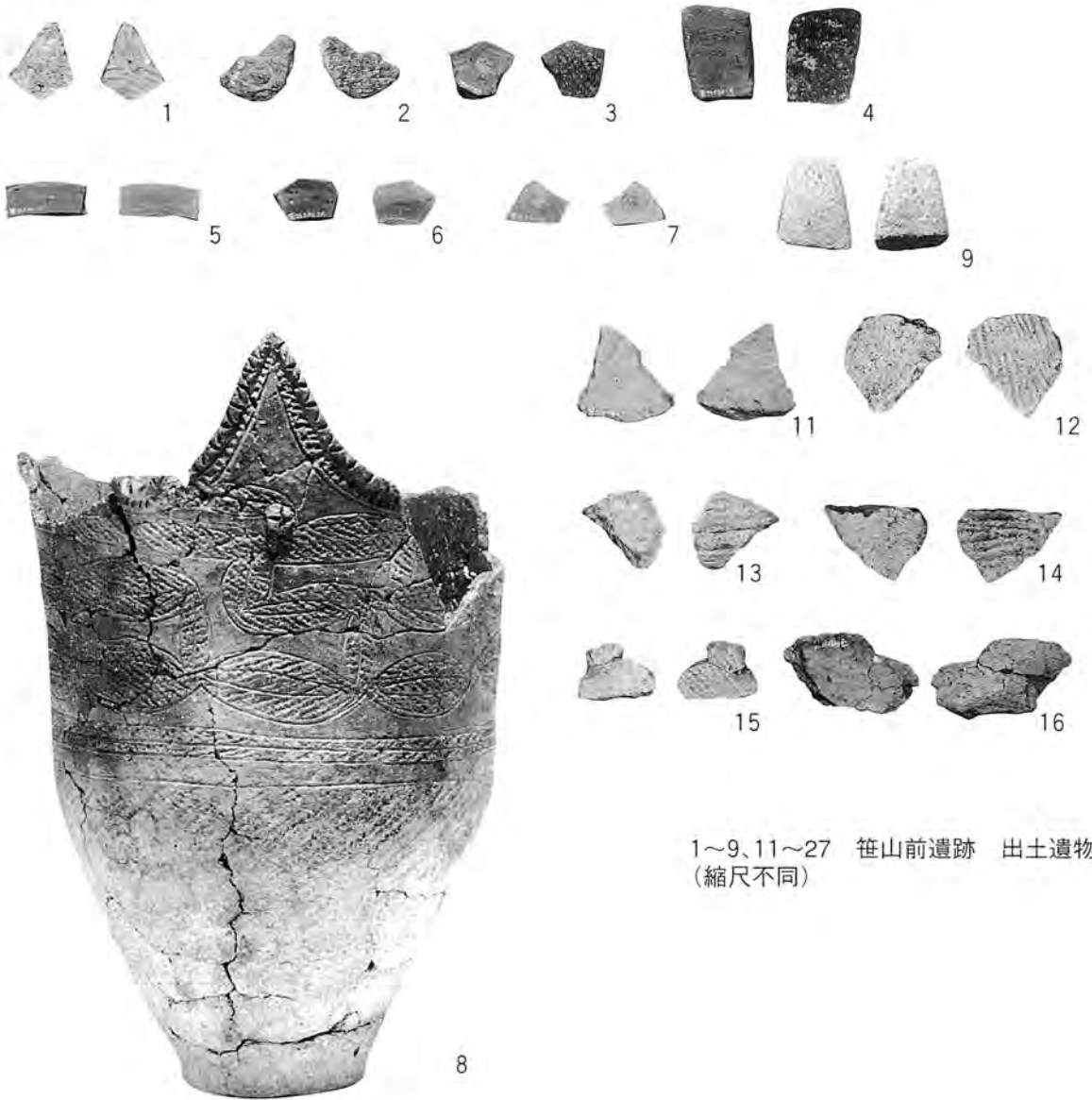
骨出土状況



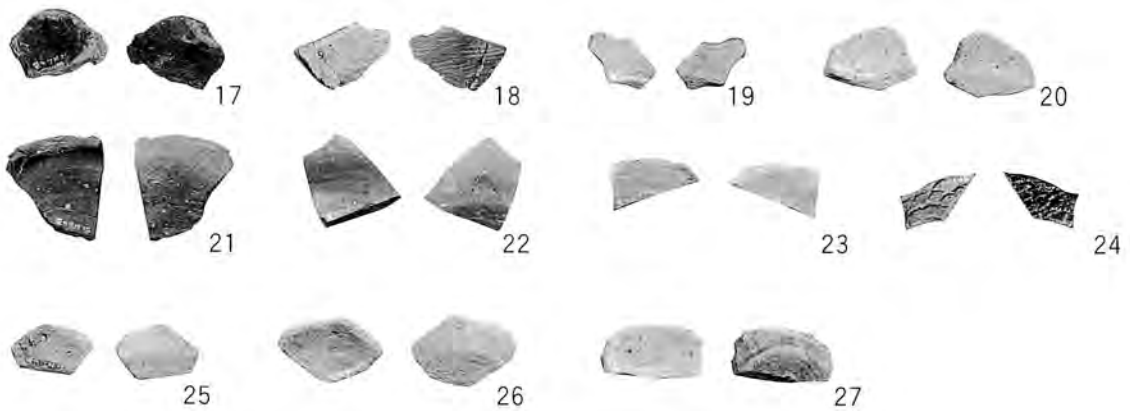
15・16 溜池遺跡 土層堆積状況(1)

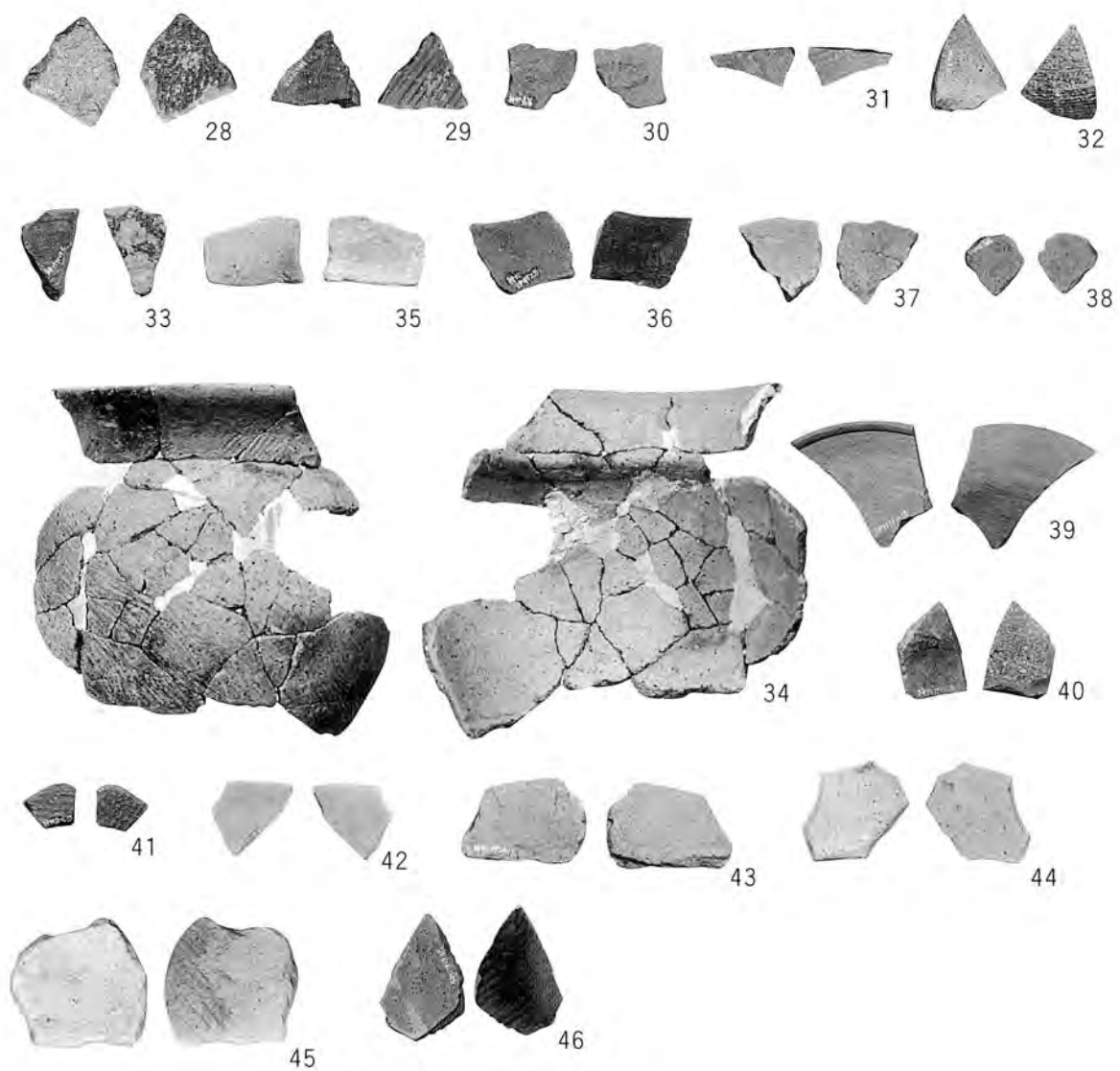


土層堆積状況(2)



1~9、11~27 笹山前遺跡 出土遺物
(縮尺不同)





28~46 神明社裏遺跡 出土遺物
(縮尺不同)

報告書抄録

ふりがな	へいせい7ねんどまいぞうぶんかざいはつかつちようさほうこくしょ							
書名	平成7年度埋蔵文化財発掘調査報告書							
編著者名	諫山 えりか							
編集機関	新潟市教育委員会 生涯学習課							
所在地	〒951 新潟県新潟市学校町通1番町602番地1							
発行年月日	西暦1996年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いするぎ 石動遺跡	にいがたけんにいがたしほんじよあざいうら 新潟県新潟市本所字居浦	15201	85	37度 54分 26秒	139度 8分 14秒	19951003 } 19951020	44	県道建設
あさやま 笹山前遺跡	にいがたけんにいがたしくらおかあざさきやままえ 新潟県新潟市蔵岡字笹山前	15201	7	37度 52分 32秒	139度 8分 32秒	19950510 } 19960511	100	県営圃場 整備
しんめいしゃうら 神明社裏遺跡	にいがたけんにいがたしきさやまあざみやうら 新潟県新潟市笹山字宮浦	15201	19	37度 52分 37秒	139度 8分 28秒	19951003 } 19951020	100	県営圃場 整備
なめいけ 溜池遺跡	にいがたけんにいがたしこうどほろ 新潟県新潟市河渡本町	15201	36	37度 55分 54秒	139度 6分 38秒	19951206	24	事務所建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
石動遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳・ 平安・中世						
笹山前遺跡	包含地	縄文・古墳・平安	埋設土器遺 構1基	縄文土器・石器、古式土師器、 須恵器・土師器				
神明社裏遺跡	包含地	古墳・平安	小穴3基	古式土師器、須恵器・土師器				
溜池遺跡	散布地	奈良・平安						

平成7年度埋蔵文化財 発掘調査報告書

発行日 平成8年3月31日
 発行 新潟市教育委員会
 新潟市学校町通一番地602の1
 〒951 電話(025)228-1000
 印刷 (有)太陽印刷所
 新潟市和合町2丁目4番18号
 〒951 電話(025)265-3101